

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立桜小学校
校長 水口 正紀

1 本年度の重点目標

おだやかさを土台とした、ひとりだちする子の育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	小樽授業づくりの5つのステップの全教科の実践80%	A	学校経営方針に位置づけ、研修でもこれからの授業づくりの核として常に意識させるようにしてきた。職員評価による達成率81%	◎
	特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインを意識した環境と授業作り85%	B	学校経営方針への位置づけや研修などを通して、環境面はよくなっているが、授業づくりをもう一步進める必要がある。職員評価による達成率82%	◎
	国際理解教育の充実	「外国語が好きだ」児童回答85%	A	公開研究会にて外国語専科教諭の授業を公開し、研修によるフィードバックを行った。児童アンケートによる達成率は86%	◎
	理数教育の充実	「算数はよくわかる」児童回答85% 「理科はよくわかる」児童回答90%	B	算数は、TT指導や能力別をとりいれ指導の工夫改善を行った。理科は、専科教員による授業で理解度が高まっている。算数:82% 理科:90%	◎
	情報教育の充実	クロームブックの定期的ミニ研修の実施及び個別最適化と協働的学びを意識したクロームの活用 85%	B	定期的ミニ研修は研修担当の声かけにより実施されている。個別最適化・協働的な学びへのクローム活用は取組を強化し始めた所。職員評価78%	○
	キャリア教育の充実	キャリア教育に関する出前教室や地域の施設見学などで働く人の様子を学ぶ体験的な学習を3年生以上の学級で実施する。	A	出前授業や施設見学による体験的な学習は、教頭や係が積極的に紹介・発信して、3年生以上全ての学級で実施した。	◎
改善方策	令和の日本型教育で求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善となるように、理論と具体的な指導法について研究を進めていく。特に、学びを活性化させるためのクロームブックの活用法についての研修を深め、学年間格差をなくし、全ての学年の子どもたちがクロームブックを操作できるように取り組む。				
学校関係者評価委員による意見	特別支援教育と理数教育は達成目標には届いていないが、充実してきているのがうかがえるので、大変良いことだと思います。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分には良いところがある」児童回答85%	B	道徳の授業実践や日常の生徒指導を通して、自己有用感を高める指導、取組を意識的に行った。児童アンケート達成率82%	○
	ふるさと教育の充実	ふるさと教育に関する外部講師活用学年:2年生以上の全学級で実施	A	外部講師の活用は、これまでの経験を引き継いだり、新たな講師を係や教頭が紹介するなどして、2年生以上全ての学級で実施できた。	◎
	読書活動の推進	「朝読書にしっかりと取り組んでいる」児童回答85%	B	朝の活動の中に、1日を落ち着いてスタートさせる・読む力を高める事を目的として、月・水の10分間を全校朝読書と設定している。児童アンケートによる達成率は83%	◎
	体験活動の推進	ボランティア活動体験100%	A	全校一斉の校区内清掃活動の実施により達成。	◎
	コミュニケーション能力の育成	「はっきりあいさつや返事をする」児童回答90%	A	月ごとに開催する生徒指導委員会で、全学年の状況把握と指導を行ってきた。児童アンケートによる達成率は90%	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「友達の良い所を見つける」児童回答90%	B	おだやかな学級づくりをめざし、生活規律の徹底や温かな声かけを実践している。児童アンケートによる達成率は84%	◎
改善方策	豊かな心の育成のために、おだやかな学校・学級づくりを進めてきた。「時を守り 場を清め 礼を正す」を学校経営の根幹に据え、教職員・児童共に着実に歩みを進め「おだやかさ」は定着してきている。しかし、おだやかな陰に隠れ、静かだが受け身になってしまい、自己表現ができない子どもたちがいる。今後は、自律を育む「ひとりだち」への取組を授業改善と関連させながら強化していく。				
学校関係者評価委員による意見	読書は生涯にわたって大事だと思いますので、さらに進展させていただけたらと思います。体験活動の推進では、視野を広げたボランティア活動を取り入れてみてはどうでしょうか。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「新体力テストを活用した授業改善」教師回答90%	B	全学年で新体力テストを実施し、結果を授業改善に活かすように取り組んでいる。職員評価の達成率は80%	○
		食育の推進	「朝食を毎日食べている」児童アンケート:95%	B	学校だより・学級通信、年2回実施する生活リズムチェック、保護者懇談会などを通して啓蒙してきた。児童アンケートによる達成率は87%	◎
		健康教育の充実	薬物乱用防止教室、エピペン・AED研修各年1回実施	A	エピペンを持参している児童がいるため、エピペンの研修は4月早々に実施して。薬物乱用防止教室とAED研修は、3学期実施予定。	◎
改善方針		健やかな体の育成のために、グランドでの外遊びや体育館の遊びを奨励し、多くの子どもたちが休み時間に体を動かして遊んでいる。今後は、体育の授業において、意欲向上のためのクロームブックの活用や運動量を確保した授業改善を行い、児童の体力・運動能力向上への取組を進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		家庭の事情や本人の生活によることはと思いますが、朝食を毎日食べていない児童のことが大変気になります。授業以外の「外遊び」が減少しているのので、学校での改善には限界を感じます。体力向上にますます取り組んでいただきたいと思います。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	「家庭での学習習慣が身についている」保護者アンケートで肯定的評価85%	B	自学ノートやクロームによるドリル、宿題などを学年の実態に合わせ、毎日やるように取り組んでいる。保護者アンケートの達成率76%	○
		学校と地域の連携・協働の推進	R6 CSスタートに向けた学習会及び準備会の開催	A	令和6年度スタートに向け、小中一貫企画部会が核となり、小中それぞれの学校で準備を進め、地域研修会も実施した。	◎
改善方針		家庭学習では、デジタルドリルの活用を家庭学習にしっかりと位置づけ、児童の意欲化を図っていく。家庭と地域の連携では、令和6年度からスタートする桜小中コミュニティ・スクールとPTA活動を地域・家庭のニーズに合わせて推進する。地域・保護者・学校がWINWINの関係となれるように、目的をはっきりさせ、具体策をもって進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		R6コミュニティ・スクールは、どのようになるのか？楽しみです。具体的に良いと実感できるようになるには、時間がかかるように思います。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中一貫教育の充実 教師回答85%	B	「ひとりだち」を共通目標として取り組んできた。企画部会が中心の役割を果たしているが、自分事として捉える職員が増えている。職員評価達成率80%	○
		教育環境の整備・充実	教室・廊下・空き教室等の環境整備教師回答90%	A	「場を清める」ことを大切に、教師が率先して、教室・廊下・空き教室の環境整備を進めている。職員評価による達成率は91%	◎
		教職員の資質・能力の向上	校内研究授業全学年実施と日常的授業交流の実施	B	個別最適な学びと協働的な学び実現のため、クロームを活用した研究授業や空き時間を使った授業交流を進めてきたが、校内研究授業全学年実施は達成できなかった。	○
		学校運営の改善	「働き方改革が進んだ」教師回答80%	A	働きがいのある職場作りをめざし、全ての教育活動に働き方改革の視点を取り入れながら進めている。職員による達成率は81%。	◎
		学校安全教育の充実	防犯教室及び防犯訓練の実施(年1回)	A	警察署に依頼して、全校児童対象の防犯訓練を体育館で実施することができた。	◎
改善方針		教職員の資質・能力の向上では、子ども主体の授業改善に向け、研修・管理職・教務が連携して研修を推進し、教職員のやらなければならないという意識は向上してきた。今後は、実戦するための具体策の提示とクロームのミニ研修による個々のスキルアップ、実戦が進んでいる教師の授業参観を通じた授業イメージの共有を図り、授業力を向上させる。				
学校関係者評価委員による意見		災害時の対応を学校・地域・家庭でじっくり研修する機会があってもよいように思います。教職員一人一人の負担が少しでも減り、楽な気持ちで仕事ができる環境になることを願います。教職員の皆様、児童・保護者の皆様にとって、様々な環境がさらに整っていけばと思います。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			高島プール、総合博物館をそれぞれ年1回以上利活用	A	高島プールは全学年利用。総合博物館は、3年生が利用した。	◎
改善方針		アフターコロナの時代となり、色々な施設が利用可能となってきた。バス代の高騰による保護者負担やスクールバスの使用が多く見込めないなどの課題はあるが、地域から学ぶ・地域と繋がることを大切に、今まで以上に積極的に社会教育施設を活用していく。				
学校関係者評価委員による意見		社会教育施設活用は、家庭で行くのと違う大切な学習ができるので、なんとか、市の助成を願います。物価の高騰は否めないが、その中でも実りのある社会教育を全体で考えたいと思います。				